

「中津川市 命の教育」

中津川市教育委員会 学校教育課

はじめに

平成18年4月、中津川市で中学生が殺害されるというたいへん痛ましく、辛い事件が起きました。その後、「命を失う悲劇を二度と繰り返さない。」という決意のもと、その年に『命の教育』の準備委員会を発足させました。

発足の経緯

発足当時は、男女の関係や性について考えることを取組の中心に置きました。その後、子どもたちが、生きることの価値を考え、命の尊さを実感をもってとらえることが大切だと考えました。現在では命の大切さを含め、生き方に迫る教育の実践をめざし、『中津川市 命の教育』と名付けて取り組んでいます。

対象は市内の全幼保こども園、小中学校とし、事務局を市教育委員会に置いて、市内幼保こども園代表、小中学校の主幹教諭、生徒指導主事と養護教諭で推進委員会を組織し、各校の実践のとりまとめや本事業における今後の方向の検討等を行っています。

目的とめざす姿

準備委員会を発足させた当時、特に危惧したことは、「どうせ、ぼくなんて…」となげやりになったり、自分や周りの人たちの存在を大切だと感じ取っていなかったりする子どもが、それまでに把握していた以上に多いことでした。

子どもたちが、「自分には、こんないいところがあるんだ。」と自分を認め、「自分は、自分でいいんだ。」と自己肯定感を味わいながら、自分や他人の存在を大切に成長していくことを目的とし、以下のような子どもを目指しています。

- 自他の命は、かけがえのない命であることを理解する子
- 自他ともに、その人なりのよさがあることを認める、進んで取り入れる姿勢を大切に
する子
- 自分のよさを磨き、挑戦し続けて、最後までやりぬこうとする子

主な実践

こうした子どもたちをめざし、主に次の取組を展開しています。

- 幼保こども園～小中学校で学習する系統的な学習内容と毎時間の指導事例の作成と改善
- 各園、小中学校での年間2時間以上の研究実践
- 実践後の学習内容と学習方法の工夫改善
- 実践資料集の作成と各校への配布

これらの取組の中から、一部を紹介します。



実践1【獣医師が行う授業】

獣医師会に協力いただき、幼保こども園、小学校の授業に参加していただいています。うさぎなどの小動物の心音を聞いたり、抱いて温もりを感じたりする体験的な活動を行います。また、ペットの治療の他にも、怪我をして運ばれてきた自然界の動物たちを、治療する話もしていただきます。動物の命も人の命も同じだと言い切られる先生の話真剣な眼差しで聞く園児や児童たちが見られ、授業後の感想には、生き物の命を大切にしたり、愛おしんだりする感想が多くありました。



実践2【助産師が行う授業】

中学校では、保健師、助産師に指導を受けながら、赤ちゃんに触れ合ったり、専用の器具を付けて妊婦さんの体験をしたり、更に子育て中のお母さんと話をしたりします。これらを通して、生徒は、命が誕生し、その命が育まれる営みを肌で感じとり、人の存在の尊さを実感します。また、自分もこうして育ててもらったんだと感謝の気持ちを膨らませる生徒も多くいます。



実践3【中津川市 命の教育合同研修会】

夏季休業中に中津川市の校長、教頭、主幹教諭、生徒指導主事、養護教諭と幼・保・こども園の対象職員が集まり、各学校の実践交流をしています。「中津川市の命の教育の入り口は幼保こども園、出口は中学校」という共通意識をもち、幼保こども園小中連携を行い、互いの活動を理解し、自校の取組に積極的に取り入れるようにしています。

実践1～3の様子を、推進委員会を中心となり、各校の取組を紹介する通信を全小中学校に配布し、教職員の理解を深め、意欲的に実践する姿勢を育てています。

また各幼保こども園・小中学校も家庭へ通信を配布し、親子で命の大切さを考える機会を増やしています。

おわりに

こうした実践を積む中で、特に小学生では、『命の大切さ尊さを実感する児童』が、中学生では、『人を思いやる価値を見いだす生徒』や『自分の存在価値を再認識する生徒』が数多く見受けられるようになりました。

今後も、これまで積み上げてきた実践を継承しつつ、子どもたちの「今」に寄り添い、必要な支援・指導を考え、各学校において全職員で取り組む確かな実践を大切にしていきます。そして、子どもたち一人一人の「よりよいひとりだち」を目指し、子どもたちが自らのよさを自覚し、自らの夢や願いの実現に向けて歩もうとする志を育てていきたいです。